

# [dōnk]

## DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0803

三重県津市柳山津興600-5 滝澤方  
600-5, Yanagiyama-tsuoki Tsu-shi

TEL 090-4867-1476

FAX 059-227-8010

N°120 novembre 2020 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## こんな時だからこそ～“ちょっとフランス音楽はいかが？”



ピアニスト 伊藤隆之

～フランス音楽とフランス文化、フランスでの実体験、  
手軽に聴けるお勧めの曲などのウンチク～ その2

コロナウィルスの影響で、皆さんまだまだ不要不急の外出は控えていらっしゃる事と存じます。

私の勤める愛知県立芸大でも、コロナ自粛で大学が休みの時、生徒にフランスの作曲家を知ってもらおうとオンラインで課題に取り組んでもらっていました。

という訳でこの度、課題に出したウンチクを再編し、「ドンク」でもご紹介させて頂く事となり、その第2回をお届け致します。

フランス語もフランス音楽も殆ど初めてという学生に焦点を当てましたので、フランスに造詣の深い日仏協会の皆様には失礼な部分もあると思われかもしれませんが、その辺はどうぞラテン的におおらかに読んで頂ければ幸いです。

### 1. フラットbとドレミのお話

第1回でドビュッシーがよく使った楽語（音楽用語）の話をしてきましたが、今回は楽語の誕生のお話を一席。楽譜によく登場するフラット（その音を半音下げる）はフランス語では**bémol**（ベモル）と言います。この言葉の起源からご紹介します。

皆さんはピアノの白鍵の音階、ドレミファソラシドの音程に、どうして全音と半音が混ざってるんだろうと思った事はありませんか？ なぜ白鍵と白鍵の間に黒い鍵盤、黒鍵があったりなかったりするんだろうと。これは実は教会旋法という中世の音階から来ているためなのです。

教会旋法の音階には現代の鍵盤の白鍵の音しかありませんでした。

教会旋法とは、聖歌などを歌う時に決められた7種類の音階で、それぞれの調に名前があり、ドの調、レの調、ミの調....といった、現代のドレミファソラシそれぞれの音からスタートし、1オクターヴ全て白鍵にあたる音階で成り立っていました。

ところが、後に今のシの音より半音低い音が初めて生まれました。

シはドイツ語や英語で「B」。molはフランス語で柔らかい、弱々しいという意味があり、フランス語ではBは ベーと発音しますので**bémol**は「柔らかいシの音」「丸まったシの音」という意味で、半音低くという指示として生まれた言葉です。そして小文字のbがそのまま記号bになりました。

ちなみに、例えばミのフラットはフランス語では「ミ ベモル」（ベモルが付いたミの音）という言い方をし、「フォーレのノクターン 変ホ長調」は“**Nocturne en mi bemol majeur de Fauré**”となります。

ナチュラルとシャープはどうかと言いますと、元の高さの音に戻す記号ナチュラルは「硬いb」「角ばったb」となり、こんな形々になりました。

そして半音上げる時はもっと「鋭く尖ったb」と言う意味の、シャープ#になりました。

#記号はbの文字がトゲトゲに毛羽だった様子を表しています。

ちなみにフランス語でもナチュラルは「四角いb」で**bécarre** ベキヤール、シャープは「鋭い」という意味の**dièse** ディエーズと言います。

ところで、皆さんは電話やスマホ等の番号記号#を、音声案内で「シャープを押して下さい」と聞いた事はありませんか？ なぜ音楽記号が電子機器に使われるのでしょうか。

実はこれはシャープに似ていますが、英語で“ハッシュ”と呼ばれる全く別のものなのです。SNSでキーワードをタグ化する“ハッシュタグ”のそれですね。

ハッシュとシャープを順に並べてみます。【#】【#】

そうです。よく見るとハッシュは縦線が斜め、シャープは横線が斜めです。シャープは楽譜では横方向の水平な五線上に書かれる事が多いため、シャープの横線を斜めにしないと五線と重なり、とても見にくいので右上がりの斜めに書くのです。

英語圏ではハッシュとシャープは区別して使っていますが、日本では勘違いされシャープが定着してしまい、今更変えられないという結末になっています。ハッシュは日本語では井桁（いげた）。「いげた」で入力すると、あらあら不思議、ハッシュ記号の#が変換候補に表れます。

実はフランスでも同じ誤りで、「**dièse**を押して下さい」と音声案内で言っています。

次にフランス語のドレミとその起源について触れてみたいと思います。

フランスのドレミ....は**Do Ré Mi Fa Sol La Si**で、通常冠詞の**Le**を付けますから、例えば日本でもよく知られている童謡「クラリネット壊しちゃった」のフランス語の歌詞は“**J' ai perdu le do, le re, le mi, le fa, le sol, le la, le si de ma clarinette !**”となり、冠詞に慣れていない日本人は舌を噛みそうになります。しかも「ソの音」**sol**はソルと発音しますからなおやこしいです。

フランスのお子さんも、この部分とサビの早口言葉のような言い回しを喜んでいるのを見た事があります。

ちなみに日本語版でも歌われているこの曲のサビの「～パオパオパ」と聞こえる部分は、実はれっきとしたフランス語です。**Au pas, camarades. Au pas, camarades. Au pas, au pas, au pas....**

ドレミの起源はラテン語です。

ドレミの命名の起こりは、中世のグレゴリオ聖歌の1曲である「聖ヨハネ賛歌」のそれぞれのフレーズが、ド、レ、ミ....の高さから始まるので、写真のオリジナル楽譜でお分かり頂けますように、ラテン語によるその各フレーズの歌詞の冒頭が**Ut re Mi fa Sol la**で始まっていたという所から来ています。

Hymn.  
T que-ant láxis re-soná-re ffrbris Mí- ra gestó-  
rum fámu-li tu-ó-rum, Sól-ve pollú-ti lábi-i re-á-tum,  
Sancte Jo-annes. 2. Núnti- us célso véni- ens Olýmpo,

聖ヨハネ賛歌の楽譜

**Si**だけは**la**の次のフレーズで楽譜3段目冒頭の**Sancte Joannes**の頭文字から採られました。カトリック千里ニュータウン教会**Sancte Joannes**は「聖ヨハネ」の意味で、**J**は**I**に置き換えられ**Si**になったのです。

尚、**Ut**は言いにくいから**Do**に変更された、又は**Dominus**（主、支配者）から取られ**Do**に変更されたと言われています（今でも稀に**Ut**を使う事もあります）。

---

ところで日本語の「ミのフラット」という言い方、ミはラテン語、フラットは英語で、2言語を混ぜて使っていますよね（この場合、英語は**E♭**なので「イー フラット」）。こんな混ぜこぜの使い方をしているのは実は日本だけです。

ポップなどのビートは「**8ビート**」を「エイトビート」と言うのに「**16ビート**」を「じゅうろくビート」と言ったり。何ででしょうね。

日本の音楽専門教育では、ドイツ語、ラテン語、日本語、英語が使い分けられています。和音聴音にはドイツ音名の**CDE**（ツェー、デー、エー）、フランス由来のソルフェージュ（メロディー視唱）にはラテン語のドレミ、「ハ長調」など曲の調性には日本語のハニホヘ、ポップにおける和音名「コードネーム」は英語の**CDE**、というように、外国にはない大変な使い分けをしている訳です。

ちなみにメロディー **melodie**、ソルフェージュ **solfège**という言葉はフランス語です。

## 2. 古い教会旋法を新しい響きとしたフランス近代の作曲家たち

バロック時代に活躍したバッハは、“機能と和声”という新しい作曲技法を確立しました。

バッハはそれまでの作曲技法を集大成し、和音進行など作曲の規則を築いたのです。

その結果、中世では一般的であった教会旋法による作曲技法には、バッハの機能と和声における「禁則」にあたるものが多く含まれていたため、使われなくなっていったのです。

しかしながら、教会旋法を使った楽曲は、独特の神秘的な響きと、時に民族音楽的な響きも持っているもので、ショパンなどバッハ以降の作曲家も禁則と知りつつ意図的に使う事も稀にありました。

そして時は流れ、機能と和声による作曲が限界に近づいた後期ロマン派の時代にガブリエル・フォーレが現れました。彼はあえて教会旋法の響きを積極的に取り入れたのです。

フォーレがもたらした、この独特な響きは当時斬新で、彼が印象派の旗手として数えられる要因のひとつとなりました。

さらにその流れはフォーレの弟子であったラヴェルに受け継がれました。ラヴェルは、ドビュッシーと共に機能と和声を捨て、教会旋法や当時流行し始めたジャズまでを取り入れ、音楽に革命を起こし、時代は本格的に音を色、光として捉える印象派の時代になって行きました。

実は教会旋法は英語でモーダル・ハーモニーと言い、ジャズの即興のアイテムの一つとなっており、現代の音楽でもよく耳にする事が多いのです。

例えば最も厳粛で神秘的なレの調（ドリア旋法と言います）は、ゲームのファイナルファンタジーの召喚シーンに使われたり、スタジオジブリの映画で有名な久石譲の「風の谷のナウシカ」の冒頭の神秘的なメロディーもこのドリア旋法で作曲されています。

ソの調であるミクソリディア旋法はちょっと威勢がいい系なので、アメリカの西部劇の音楽にとっても多く、日本では1970年から84年まで放送された時代劇「大江戸捜査網」のチャンバラシーンにも威勢よく使われました（調べましたら、若い頃の杉良太郎、里見浩太郎、松方弘樹が主役をバトンタッチした、このチャンバラシーンだけは音楽と相まってカッコいいからか、やたらたくさん動画がアップされました）。又、恐らく本人は気が付いていなかったと思いますが、ビートルズのジョン・レノンはこのミクソリディア旋法で曲作りをする傾向が強く、代表作「ア・ハード・デイズ・ナイト」の冒頭などがこの旋法にあたり、ポール・マッカートニーにはない独特の世界を作る一因となっています。

教会旋法は一度淘汰されかかり、印象派によって華々しく再び咲き、現代にも生きているのです。

---

### 3. 一人の女性をめぐるフォーレとドビュッシー

さて、教会旋法から印象派への流れの話を取り上げたところで、フォーレとドビュッシーの意外なエピソードについて触れてみましょう。

この二人、フォーレは1845年生まれ、ドビュッシーは1862年生まれで、フォーレの方がかなり先に生まれていて作風は全く違いますが、二人の素晴らしい作品は今でも数多く演奏されています。

二人は上記のように時代を変えるほどの作曲家でしたが、性格は正反対。

フォーレは温厚で人望が厚く、パリ国立音楽院の学長にまでなった人ですが、ドビュッシーは素行も性格も問題が多く、婚約中に娼婦と仲がいい事が発覚して婚約者から婚約破棄されたり、お世話になった作曲家のショーソンと喧嘩し、ショーソンのお葬式に行かなかったなど複雑なエピソードもあります。

ドビュッシーには、一人目の妻を捨てて逃避行し、妻は拳銃自殺未遂、などスキャンダルも多く、友人達がどんどん離れていった時期もあります。ここではこの事件に着目します。

フォーレとドビュッシーは、作風が違っていたのでお互い興味を持たなかったとされていますが、この二人、実はエンマ・バルダックという声楽家に恋をしたという決定的な遍歴があります。

エンマはシジスモン・バルダックという銀行家の妻でありながら、後世に名を残す作曲家と結婚して自分の名を残したいという野望がありました。

このエンマ・バルダック夫人は銀行家の夫との間にラウルという息子がいる身でありながら、フォーレと付き合っていました。

そしてラウルの妹となるエレヌという娘を生むのですが、エレヌは実はフォーレの娘ではないかと言われている、有名なピアノ連弾曲「ドリー」はフォーレが我が子であるエレヌのために作ったのではとの説が有力です。

ところがエンマはラウルとエレヌの音楽教育をドビュッシーに頼んだ事がきっかけで、ドビュッシーとも恋に落ちてしまいます。結果的にエンマは夫と別れ、ドビュッシーの妻として女の子を出産。「ゴリウォーグのケーキウォーク」で有名な組曲「子供の領分」はドビュッシーが娘のクロード・エンマのために作曲しました。

ちなみにドビュッシーのピアノ曲「喜びの島」は、ルーブル美術館のヴァトーの絵画「シテール島への乗船」から靈感を受け作曲されましたが、これはギリシャ神話のシテール島にカップルで詣でると愛が成就するというストーリーに基づいていて、エンマ・バルダック夫人とイギリスのジャージー島に逃避行中に書かれた作品です。

このエンマとの逃避行中に、ドビュッシーの妻は拳銃自殺未遂をしています。

...するってえと、エンマは3人の子宝に恵まれた事になりますが、もしエレヌがフォーレの娘だとすると、この子たちの父親は3人別々という事になります。

フォーレは、ドビュッシーに恋人を取られてしまったのですから、これではフォーレとドビュッシーの仲が良い訳はないですね。

そしてエンマは今でもフォーレとドビュッシー両方の伝記に同じ写真付きで登場しています....。

エンマの、後世に有名な作曲家と結婚して名を残したいという野望が、叶ったという事です。





## 今回のお勧め曲

## ～レクイエム聴き比べ～

さて、今回もPCでも聴けるフランス音楽をご紹介します。日本ではフォーレは歌曲（実はフランスより日本の方が人気）とレクイエムというイメージが強いですが、フォーレには、フランス人から「フランスのショパン」と呼ばれる程の素晴らしいピアノ曲、そして室内楽曲、オーケストラと合唱曲などが多くあり、その一面を第1回でご紹介させて頂きました。

ドビュッシーにも実は素晴らしい歌曲や室内楽曲も多いのですが、ドビュッシーの作品については、また後ほどご紹介するとして、中世教会音楽やレクイエムの話も取り上げましたので、今回は「フランスの“レクイエム聴き比べ”」という趣向で参りましょう。

### \*フォーレのレクイエム

亡くなった方へのミサ曲、レクイエム**Requiem**。「安息を」と言う意味のラテン語です。

モーツァルト、ヴェルディと並び、フォーレのレクイエムは、3大レクイエムのひとつとして、今も世界を魅了しており、人それぞれの好みもありますが、もうこれ以上のレクイエムは出ないであろうとも言われています。

フォーレは南仏のアリエージュ県パミエで生まれました。9歳でパリのニーデルメイエル古典音楽学校で学び、サン＝サーンスにも師事し、レンヌの教会やパリのマドレーヌ寺院でオルガニストを務めます。後にパリ国立音楽院で教鞭を取り校長にまでなった人で、弟子にラヴェルやデュカスを輩出し、フランス国民音楽協会設立にも貢献しました。

父の死を機会に作曲されたレクイエムは、パリ・マドレーヌ寺院で初演され、後に同寺院でフォーレ自身が亡くなった時に行われた国葬の際、自らのレクイエムで見送られました。

初演当時はあまりにも斬新な響きにフォーレはマドレーヌ寺院の司祭から叱責されたとか。

レクイエムは、中世からあまたの作曲家によって作曲され、死者のためのミサに沿って演奏されるように、曲名、歌詞が決まっています。

重々しく死を嘆き悲しむ傾向が強かったのですが、フォーレのレクイエムは対照的なものでした。

暗く重々しいのは冒頭と、わずかな部分だけで、全体的にこの上ない穏やかな美しさを持ち、これまでとは違った悲しみの形を表現しています。

カトリックの死者のためのミサに必要な「怒りの日」をカットし、「我らを解き放ちたまえ」「天国へ」を加えた型破りな構成になっている事も見逃せません。

あまりの斬新な音楽と構成に、当初フォーレは異教徒なのではないか、などという非難の声もあったほどでした。

フォーレは自身の書いた手紙の中で次のように語っています。『私のレクイエム...は、死に関する恐怖感を表現していないと言われており、中にはこの曲を死の子守歌と呼んだ人もいます。しかし私にはそのように感じられるのであり、それは苦しみというより、むしろ永遠の至福の喜びに満ちた解放感に他なりません。』



名演は多々ありますが、スイスの指揮者、ミッシェル・コルボ**Michel Corboz**の録音は、今後これ以上の演奏は出ないのではと多くの人を唸らせた歴史的な名演です。

PC検索の場合はなぜか横文字で入力すると曲が細切れになり、1曲ずつ検索し直さないといけなくなるので、日本語で「フォーレ レクイエム コルボ」と 入れると日本人がアップしたコルボ全曲版が聴けます。

## \*カンプラのレクイエム

フランス・バロックの作曲家、アンドレ・カンプラ **Andre Campra** (1660-1744) は、パリのノートルダム 寺院の楽長、ヴェルサイユ宮殿の宮廷礼拝堂などで活躍した人で、多くの宗教曲を残していますが、フランスでは歌曲やオペラ曲でも知られています。このレクイエムは、フォーレのレクイエムへと続く、“死を嘆き悲しむのではなく天国での幸せを祈る”という流れのまさに源泉とも言える素晴らしい作品です。



録音はいくつかありましたが、忘れられかけていたこの曲を、ジョン・エリオット・レクイエム ガーディナー&イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団ガーディナー (Sir Jhon Eriot Gardiner) が指揮をし、不死鳥のように蘇らせ、名演となっていますが、残念なことにサイトでは第1曲目しかアップされていないので、「**Andre Campra (1660-1744) Messe de Requiem**」と打ち込んで、別の録音を聴くしかないようです。CD購入の方はガーディナーの録音を聴いてみてください。

## \*デュルフレのレクイエム

象派の時代に生まれ、オルガンの即興演奏などに長け、オルガン曲、オーケストラ曲を残し、現代に近づきつつある時期に活躍したモーリス・デュルフレ **Maurice Durfle** (1902-1986)。

彼はパリのノートルダム寺院やサンエティエンヌ・デュ・モン教会のオルガニストを務め、パリ音楽院で教鞭を取るなどして活躍した作曲家です。

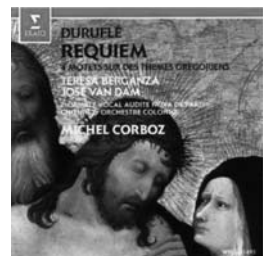
このレクイエムは明らかにフォーレのレクイエムを意識して1947年に作曲されています。和声構造はやや現代風ですが、主題の多くには中世グレゴリオ聖歌のレクイエムの旋律が用いられ ルネサンス音楽の影響も強く、現代と中世の音楽を融合させ、その美しさには比類ないものがあります。

デュルフレのレクイエムもフォーレと同様、「怒りの日」を省き、「我らを解き放ちたまえ」「天国へ」が加えられています。

この曲もミッシェル・コルボ **Michel Corboz** が素晴らしい演奏を録音しています。「**Durfle Requiem Corboz Teresa Berganza**」と入力するとコルボの全曲版が聴けます。

フルオーケストラ伴奏版が色彩に富み、ダイナミックで素晴らしいです。

オルガン伴奏版や簡略化されたオーケストラ伴奏のバージョンもありますのでCDを購入される方ご注意ください。



この他に、ベルリオーズ、グノーなどにもレクイエムがありますが、上記の3つは特筆に値する傑作です。演奏時間はそれぞれ40分、45分、40分とめっぽう長いですが、外出自粛、そして秋の夜長にワインを傾けながらじっくり聴くのもまた一興かと存じます。

今回は「日本人とフランス人のお名前」と題し、双方の国で、なかなか正確に読んでもらえないお名前のエピソードを中心にクイズも交えてお話しします。

それでは皆さん、フランス音楽で心豊かに過ごせますように！

# 奈良日仏協会ガイドクラブ（10月10日）に参加して

田中豊士

## 【桜井へ】

榛原を出た近鉄電車は初瀬の谷に入り高度を下げながら大和盆地に近づく。長谷寺駅を過ぎればもう国中はすぐそこ。右手に三輪山がそのなだらかな稜線を見せ始める。大和朝倉駅を過ぎれば一気に視界が広がる。私にとっては奈良にやって来たことを実感する瞬間だ。

お昼過ぎの桜井駅にメンバー全員が集合。台風の進路が心配でしたが、雨も風もなく開催することができました。フランコフォニーは、フランス人で京都からやって来たニコラ マイニさんと、津から私と一緒にやってきた三重大学留学生でセーシェル出身のエノラ ルポーニュさんの二人だけ。いつものように留学生に声をかけたくてもその相手がいないことがとても残念でなりませんでした。

## 【聖林寺】

若い頃から大和の国はあちこち歩いてきましたが聖林寺は初めてのお寺。着いた早々境内からの眺めに圧倒されてしまいました。真正面に三輪山とそれに連なる大和青垣、その左手には奈良盆地、洛北の山々もはるか彼方に。時空を越えて旅するとはこのことなのでしょう。本尊の石造のお地藏さまは何ともユーモラスなお姿で、たくさんの安産をかなえ近郷の人たちを笑顔にしてくれたそうです。十一面観音さまは、本来なら東京出張中のところ時節柄キャンセルとなり偶然にもお会いすることができました。優しい顔を眺めていると「もう来る頃などと思っていた。」と声を掛けられたような気がしました。

## 【談山神社】

今は神社ですが元々はお寺であり、聖林寺はその別院であったとのこと。向かいの多武峰観光ホテルの5階レストランからの眺めは十三重の塔など境内の伽藍を正面に眺めることができ素晴らしい。十三重の塔を見ながらのモンブランも美味しかったです。紅葉の時期もきっと素晴らしいことでしょう。神社の縁起絵巻には蘇我入鹿の首が飛んでいる有名なシーンがあり、これからはしっかり仕事をしようと心を入れ替えることができました。

## 【再会を期して】

ニコラ マイニさんはシャルトル近郊の出身で、桜井とシャルトルが姉妹都市提携をしているので過去にも桜井を訪れたことがあるとのこと。神様は異なれど歴史や文化の縁でつながっているのでしょうか。

今回のガイドクラブに参加をしてまたまた行きたい場所や好きなものが増えてしまいました。桜舞う聖林寺、雪の談山神社、桜井と縁のあるシャルトル、奈良の地酒。そして、神も仏もある土地に暮らしていることを改めて実感することができ、宗教や国籍の違いや疫病への不安を乗り越えるためのヒントをもらうことができました。





## 「香りの器コレクション」で リフレッシュしませんか 大原里歩

現在三重県立美術館で開催中の「香りの器－高砂コレクション」のご案内です。高砂香料工業株式会社のコレクションより、古代から現代まで、西洋、イスラム、日本の香りにまつわる工芸品約230点が展示されています。今回は写真撮影が可能なのでお気に入りを見つけて下さい。

展示は3000年～2000年前の香油壺、香油瓶から始まります。キプロス、ギリシア、古代オリエント製のこれらの小さな容器は精巧で、一つ一つが小宇宙のようなパワーを発しています。

フランス絶対王政ルイ14世の治世以降17～18世紀西洋で作られた香水瓶は煌びやかで、誰が考え出したか携帯用もあり19世紀には望遠鏡付きまで現れました。陶磁器製のマイセン、ウエッジウッド、セーブルなどの他チェルシー窯のも必見です。香水メーカーが出現すると香水瓶にも新しい波が。まずアール・ヌーヴォー、アール・デコのエミール・ガレ、ドーム兄弟、ルネ・ラリック、次いでバカラやサンルイ、ディオールなども参入し、香水と言えばフランスのイメージが確立していったと思われます。当然広告も必要で、大小さまざまな美しいポスターや分厚いカタログ、藤田嗣治の雑誌掲載広告も展示されていて見飽きることはありません。印象的な香水瓶の一つ。「ラムセスⅡ世」、パリ・コンコルド広場に立つオペリスクを模してヒエログリフも再現されています。どんな香りだったのでしょうか？

予告

SHOCK OF DARI サルバドール・ダリと日本の前衛 2021年1月9日(土)～3月28日(日)

### フランス語教育振興協会(APEF)への寄付のご報告とご協力をお願い

APEFは、実用フランス語検定試験（仏検）を実施している公益財団法人です。かつては柏木隆雄先生も副理事長を務めておられました。会員の皆さまの中にも、受験された経験のある方がたくさんいらっしゃると思います。

実はコロナ禍による春季試験中止の結果、APEFは年間収入の4割を失ってしまいました。秋季試験は実施されますが規模は縮小、受験者数もかなりの減少傾向です。この創設以来の「運営存続の危機」を前に、APEFは苦しい現状を公開し、一般に広く寄付を募っています。

フランス語教育に関わる企業、大学や各地の日仏協会などがすでに寄付を行っていることがHPにて報告されております。我々もぜひ協力したく思い、三重日仏協会より1万円の支出、加えて理事と運営委員より2万円を集め、計3万円の寄付を行いましたことを、ここに報告させていただきます。

今後有志を募り、さらなる追加の寄付も検討しておりますので、ご協力できる方は事務局までご連絡ください。  
(浅野信二)

### 2020年度総会議案書・書面議決結果について

本年は総会議案書を、書面議決という形にてご案内させていただきました。会員の皆様より、第1号議案・第2号議案ともに、賛同をいただきました。ありがとうございます。

事務局としては、大変ありがたいメッセージを多くの会員の皆様よりいただきました。勝手ですが一部紹介をさせていただきます。

- ・事務局はじめ理事運営委員の皆様、お疲れ様です。一日も早く平常の活動に戻ることができるよう祈念いたします。<Y.T>
- ・covid-19流行が早く収束することを願っております。皆様もご自愛いただければと存じます。<K.Y>
- ・協会運営に関してお力をいただきありがとうございます。年一回の総会パーティの参加だけしか協会会員の役を果たしていない私にとって、それらが中止になったのは残念です。しかたがないですね、来年を楽しみにしています。<B.K>